

株式会社ジェイコム東京 武蔵野・三鷹局
放送番組審議会 議事録

令和 2 年度（2020 年度）株式会社ジェイコム東京 武蔵野・三鷹局 放送番組審議会は
新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令中のため
2021 年 3 月 9 日（火）オンライン会議（ZOOM 会議）にて開催。

【放送番組審議会委員】

石坂 和也 様
小島 祐一 様
金子 彰 様
土方 弘子 様
吉清 雅英 様
和久津 豊 様
<欠席> 見城 武秀 様

事業者側から J:COM チャンネル（11ch）について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：土方会長

■「2020 年度編成報告」について

委員

番組制作では、新型コロナウイルスの影響により非常に取材が制限されたとの事でご苦勞であった。
デリバリー & テイクアウト情報「武蔵野・三鷹 家ごはん！」は、行政だけでは発信がなかなか難しい取り組みを地元の市民目線でしっかりと伝えていただいているありがたい。行政とメディアとの相乗効果を生かして、情報をより広く知っていただくことが重要である。

「三鷹市市制施行 70 周年記念動画」は、率直な感想として非常にポップな感じで、市民の出演者の方々の表情も生き生きと撮れていた。本当に楽しそうに踊っていてコロナ禍の鬱屈した日々を発散するような形で非常に良い動画が出来たと思う。

委員

「ジモト応援！つながる News」はテンポよく元気の良い番組である。このようなテンポの良い番組は面白い。「家ごはん」のデリバリー紹介も非常に良い。

ステイホームで、在宅者が非常に多くなり、テレビをはじめインターネット、ラジオも非常に注目が集まり、むさしの FM もラジオのアクセス数が現在全国 1 位となった。ラジオについては音声のみだが、音声を聞くため脳を使うため認知症の予防にも非常に効果があるのではないかと考えており、このような面でも注目が集まっている。

J:COM も含めてテレビなども一種のチャンスが来ている。ステイホームやリモートワークが今後増えると考えますが、ビジネスマンについてもアピールできる内容の番組がコンテンツとして出せば、視聴者数が伸びるのではないかと。

委員

様々なイベントがこのコロナ禍の状況下で難しくなっていて、今までの生中継や取材において、J:COM も苦労しているのではないかと。主催する我々も、色々と変化してきていて、変えていかねばいけないと感じている。昨年は、残念ながら三鷹阿波踊りの開催も中止になったが、「三鷹市市制施行 70 周年記念動画」には阿波踊りのメンバーも 10 名程度と少数だが参加している。久しぶりに外で踊れて、このような踊る機会もあるのだなとうれしく感じている。

ステイホーム中の時間の使い方では、メディアがどのように伝えるかが重要であり、そのコンテンツで様々な年代の興味ある対象を探りタイミング良く発信していただけるようお願いしたい。

委員

イベントなどの取材が厳しい状況もあったが、逆の見方をすれば、かなり多くの方がテレビやインターネットなどメディアに接する回数も増えた。8 月は「M-Met」など、限られた中で工夫をして多くの方に接していただけた部分もあると思う。

行政も講演会などメディアを使って新たな工夫をしている。コロナが落ち着いてきても、民間のイベントも今までのものと今回新たなものを組み合わせていくと、更に見ていただきたいことが増えると感じている。

武蔵野市も広報番組「むさしのシティニュース」を制作する際に、新しくオープンした「エコリゾート」で収録をし、施設の紹介もしている。内容は今までと同じであっても、発信する場所を工夫している。「M-MET」も自分たちの知っている地域の先生が出演していることで J:COM の番組を初めて見た子供たちも多いと思うので、このような事から広がっていくのも良い。

事業者

我々もコロナ禍を経て、多くの事を学んだ。「つながる News」も今までは取材に行っていたものを、ZOOM を利用した取材が手際良くできるようになった。

ニュースは情報が命となるが、情報収集の方法も制作スタッフの会社人数を抑えている中で在宅でも情報を集められるルートの開拓をしたり、様々な取り組みをしている。今後も活用ができるものと考えている。

イベントも中止になっているが、地域の方々や行政がオンラインで試行錯誤されているので、我々も放送のインフラや制作スキルを活かし、一緒に考えて新たな形を模索していきたい。

委員

昨年は、1年前より実行委員会が各種のイベントの準備を始めていたが、動員をかけるようなイベントは全て中止となり、そのような中で J:COM の協力も得て、無観客でもアーティストやクリエイターの皆さんが参加できるものだけ実施をした。J:COM に映像を編集して発信してもらったことで、現場で活動していた委員や参加したクリエイターも背中を押してもらい、メディアの発信力を改めて実感した1年間であった。

アフターコロナに向けても、今回一緒に積み上げてきた知見を活かして、元に戻るのではなく、発展的な形で、J:COM の放送を使いながら、次のステージに移って行くことが、現場のメンバーの意識にも残ったのではないかな。

ステイホームが始まり、皆さんの時間が増えて自分の住んでいる地域に対する意識に少し変化があったのではないかな。今後は FM も含めて J:COM のような地域情報を発信する地域のメディアの重要性がもっと増える。我々も J:COM に情報提供をして、最新の街の状況や活動しているメンバーの状況などをリアルタイムで発信するように意識していきたい。

委員

コロナ禍でステイホームもあり、制作スタッフも対面での取材も限られる中、我々が必要とする地域情報を放送していただき感謝している。

地域メディアが気になりだして、大事だということがこの1年間わかり、全国メディアからの情報よりも、より詳しい地元の情報が知りたいのでコミュニティチャンネルや「ど・ろーかる」を観ている。

夏休みの朝の子供向けの「M-MET」はとても良かった。学校の先生が出演もしていて嬉しかった。

三鷹阿波踊りの方々も踊りの練習ができないと聞いているが、ソーシャルディスタンスを取り練習の様子などを SNS で情報発信している方もいる。コロナ禍でもこんなに頑張っているという活動情報などを J:COM が取り上げて発信してほしい。

「ど・ろーかる」の投稿機能にて情報発信も可能であるが、市民からの良い投稿などあったか。

事業者

「ど・ろーかる」に投稿機能はあるが、ツイッターのアカウントが必要なため、投稿が難しい方もいると思うが、情報提供はいろいろな形で受け付けており、通常時から地域の方々との関係性を作っていたので、メールや電話、FAX、「ど・ろーかる投稿」を含め多数の情報をいただいている。デリバリーの情報も投稿いただいたものから取材をさせていただいた。

委員

地域貢献で三鷹商工会の「三鷹まちゼミ」に2件参加されているが、個人商店でなくJ:COMが参加されていることに驚いた。コロナ禍でも、色々なことに参加したい方の想いを満たしたのではないか。引続き来年もお願いしたい。

以上